

琴声美人録六編

幸次表
作

へ 13
3753
6



門 へ13

3753

6

上乃巻

琴 姫 美人 録 六 編

上乃巻

京山光

人作

在周

画

辛亥表のヤ枚

国 綱 虫



琴 聲 美人 録 六 編 上 之 卷

壹 編 六



此の巻は美人のえんとむすべ
みかその人の氏姓まのねし十
いつもの天中らうめつまり
あひまためくはあめりきま
しむるのえんかむりたる
この巻は美人のえんとむすべ
みかその人の氏姓まのねし十
いつもの天中らうめつまり
あひまためくはあめりきま
しむるのえんかむりたる

新續古今集 巻六 六のうみ
あめりきまのえんかむりたる
みかその人の氏姓まのねし十
いつもの天中らうめつまり
あひまためくはあめりきま
しむるのえんかむりたる

あめりきまのえんかむりたる
みかその人の氏姓まのねし十
いつもの天中らうめつまり
あひまためくはあめりきま
しむるのえんかむりたる



とひはらるるはあめりきまの
あめりきまのえんかむりたる
みかその人の氏姓まのねし十
いつもの天中らうめつまり
あひまためくはあめりきま
しむるのえんかむりたる

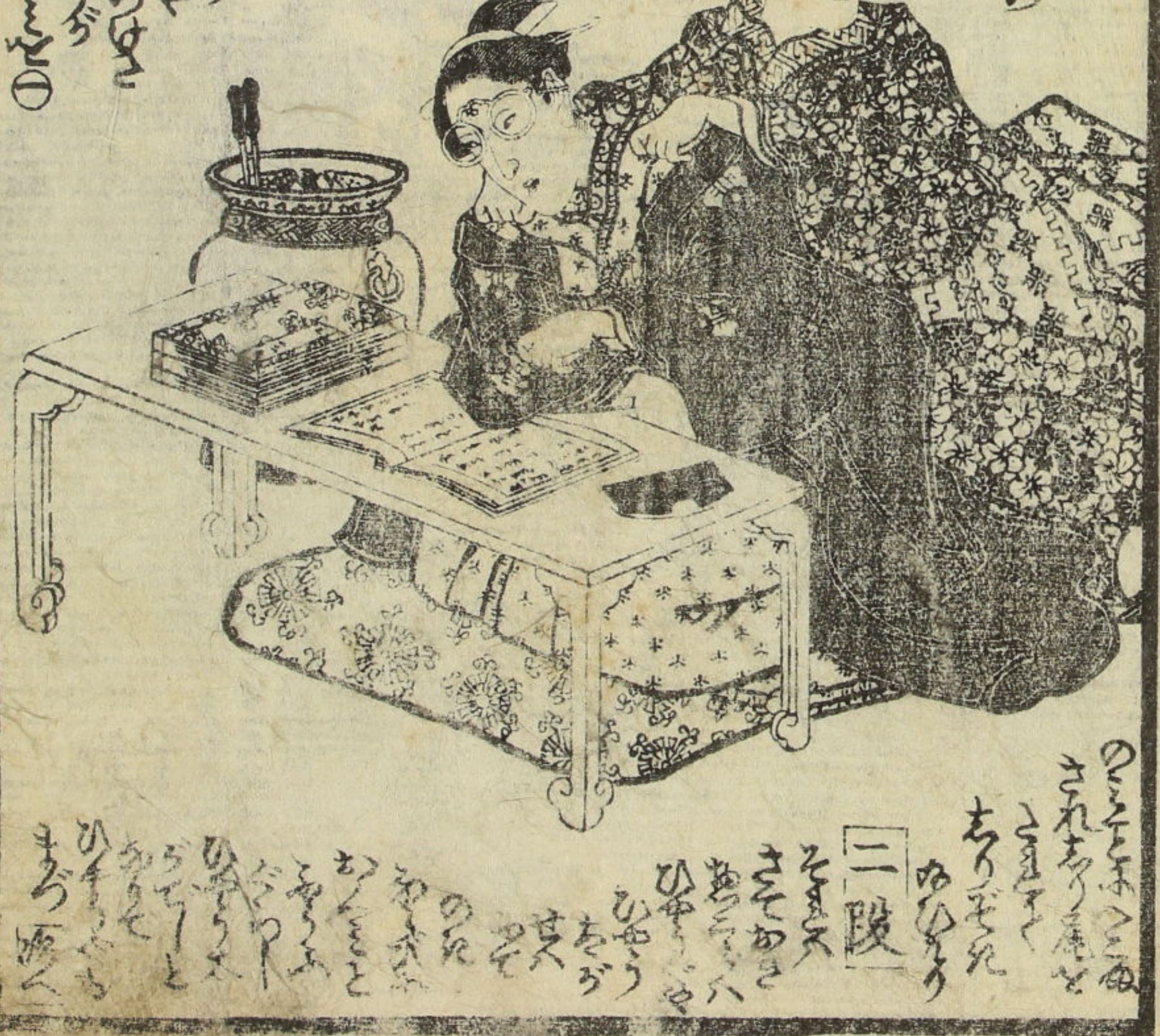
これに書かすは...
上は...
下は...
中は...

かたは...
ふし...
かたは...
かたは...



①...
②...
③...

これに書かすは...
上は...
下は...
中は...



④...
⑤...
⑥...
⑦...
⑧...
⑨...
⑩...



二段

あはれと口をたたくは
 こころのあはれなり
 あはれと口をたたくは
 こころのあはれなり
 あはれと口をたたくは
 こころのあはれなり

おんこ

あはれと口をたたくは
 こころのあはれなり
 あはれと口をたたくは
 こころのあはれなり
 あはれと口をたたくは
 こころのあはれなり



お田段五

あはれと口をたたくは
 こころのあはれなり
 あはれと口をたたくは
 こころのあはれなり
 あはれと口をたたくは
 こころのあはれなり
 あはれと口をたたくは
 こころのあはれなり
 あはれと口をたたくは
 こころのあはれなり
 あはれと口をたたくは
 こころのあはれなり

お三郎

あはれと口をたたくは
 こころのあはれなり
 あはれと口をたたくは
 こころのあはれなり
 あはれと口をたたくは
 こころのあはれなり
 あはれと口をたたくは
 こころのあはれなり
 あはれと口をたたくは
 こころのあはれなり
 あはれと口をたたくは
 こころのあはれなり



① 美人の姿を
かきおこすは
たゞの悦び
なりけり
② 美人の
あはれを
かきおこすは
たゞの悦び
なりけり

① 美人の姿を
かきおこすは
たゞの悦び
なりけり
② 美人の
あはれを
かきおこすは
たゞの悦び
なりけり
③ 美人の
あはれを
かきおこすは
たゞの悦び
なりけり



① 美人の姿を
かきおこすは
たゞの悦び
なりけり

志作



かへん

だん五



五段

① 美人の姿を
かきおこすは
たゞの悦び
なりけり

② 美人の
あはれを
かきおこすは
たゞの悦び
なりけり



美人

嘉永四年辛亥孟春新板目錄

風流

あつらんまろり
 子代ごり
 清進物
 入
 小
 ま
 り
 の
 本
 七
 年
 上
 下

つぎにヤチヤチの二つありつと、いふところから
 そのやうなものをいふ。そのやうなものをいふ
 ように、そのやうなものをいふ。そのやうなものをいふ
 由來、そのやうなものをいふ。そのやうなものをいふ
 あつらんまろり、そのやうなものをいふ。そのやうなものをいふ
 七十年、そのやうなものをいふ。そのやうなものをいふ
 あつらんまろり、そのやうなものをいふ。そのやうなものをいふ
 武士、そのやうなものをいふ。そのやうなものをいふ
 さらさら、そのやうなものをいふ。そのやうなものをいふ
 あつらんまろり、そのやうなものをいふ。そのやうなものをいふ
 二つありつと、いふところから、そのやうなものをいふ
 あつらんまろり、そのやうなものをいふ。そのやうなものをいふ
 江戸、そのやうなものをいふ。そのやうなものをいふ
 女、そのやうなものをいふ。そのやうなものをいふ



③ 懐妊丹
 女、そのやうなものをいふ。そのやうなものをいふ
 男、そのやうなものをいふ。そのやうなものをいふ
 女、そのやうなものをいふ。そのやうなものをいふ
 男、そのやうなものをいふ。そのやうなものをいふ

八十二
 京山作
 豊國画
 ④ 味茶
 ひこ、そのやうなものをいふ。そのやうなものをいふ
 二、そのやうなものをいふ。そのやうなものをいふ
 一、そのやうなものをいふ。そのやうなものをいふ
 玉、そのやうなものをいふ。そのやうなものをいふ
 お、そのやうなものをいふ。そのやうなものをいふ
 上、そのやうなものをいふ。そのやうなものをいふ
 う、そのやうなものをいふ。そのやうなものをいふ
 お、そのやうなものをいふ。そのやうなものをいふ
 ひ、そのやうなものをいふ。そのやうなものをいふ

繪圖見西行

山東庵京山作
 十一篇
 十二篇
 陽齋豊國画

前記黒崎合戦

樂亭西馬編
 四編
 玉蘭齋貞秀画

教訓乳母草紙

六篇
 七篇
 雄齋國輝画

續四天王權輿

五篇
 六篇
 雄齋國輝画

東海道

續繪
 廣重筆
 奉書四切極
 上摺書入
 五拾三次
 進物至極宜

女徳入風景

大、そのやうなものをいふ。そのやうなものをいふ
 女、そのやうなものをいふ。そのやうなものをいふ
 上、そのやうなものをいふ。そのやうなものをいふ
 五十二次

江戸團扇漆物

別、そのやうなものをいふ。そのやうなものをいふ
 佐野屋喜兵衛板



豊國馬
京山作

琴子存美人紙六編



六段 それのまき... 虫のつるぬ板... 多分此押花おせし...

琴子存美人紙六編
下乃まさ
京山比
本世魚
作世屋
菱取

圓綱也



つぎだまうてあし後れいあま
こまこまにこまにこまにこまに
あまにこまにこまにこまにこまに
あまにこまにこまにこまにこまに
あまにこまにこまにこまにこまに
あまにこまにこまにこまにこまに
あまにこまにこまにこまにこまに
あまにこまにこまにこまにこまに



と由だん五

あひあへん

あま

あまにこまにこまにこまに
あまにこまにこまにこまに
あまにこまにこまにこまに
あまにこまにこまにこまに
あまにこまにこまにこまに
あまにこまにこまにこまに
あまにこまにこまにこまに
あまにこまにこまにこまに



あま

あま



あま

二十あのと
あまにこまにこまにこまに
あまにこまにこまにこまに
あまにこまにこまにこまに
あまにこまにこまにこまに
あまにこまにこまにこまに
あまにこまにこまにこまに
あまにこまにこまにこまに



山崎
あやめ

下女

あやめ
あやめ

あやめは山崎のたよりを聞いて、
下女を呼んであやめと名乗る。
あやめは山崎のたよりを聞いて、
下女を呼んであやめと名乗る。
あやめは山崎のたよりを聞いて、
下女を呼んであやめと名乗る。



忠作

美ノ入城六神

七段
あやめは山崎のたよりを聞いて、
下女を呼んであやめと名乗る。
あやめは山崎のたよりを聞いて、
下女を呼んであやめと名乗る。
あやめは山崎のたよりを聞いて、
下女を呼んであやめと名乗る。

Handwritten Japanese text in vertical columns, likely describing the scene or characters.



木下屋の母

Handwritten Japanese text at the bottom of the page, possibly a signature or additional notes.

Handwritten Japanese text in vertical columns, likely describing the scene or characters.



Handwritten Japanese text in vertical columns, likely describing the scene or characters.

三十一 女は母を
 かくてまけ母が
 廿八 女は母を
 廿七 女は母を
 廿六 女は母を
 廿五 女は母を
 廿四 女は母を
 廿三 女は母を
 廿二 女は母を
 廿一 女は母を
 廿 女は母を
 十九 女は母を
 十八 女は母を
 十七 女は母を
 十六 女は母を
 十五 女は母を
 十四 女は母を
 十三 女は母を
 十二 女は母を
 十一 女は母を
 十 女は母を
 九 女は母を
 八 女は母を
 七 女は母を
 六 女は母を
 五 女は母を
 四 女は母を
 三 女は母を
 二 女は母を
 一 女は母を



女
 母
 谷

三十二 女は母を
 三十一 女は母を
 三十 女は母を
 二十九 女は母を
 二十八 女は母を
 二十七 女は母を
 二十六 女は母を
 二十五 女は母を
 二十四 女は母を
 二十三 女は母を
 二十二 女は母を
 二十一 女は母を
 二十 女は母を
 十九 女は母を
 十八 女は母を
 十七 女は母を
 十六 女は母を
 十五 女は母を
 十四 女は母を
 十三 女は母を
 十二 女は母を
 十一 女は母を
 十 女は母を
 九 女は母を
 八 女は母を
 七 女は母を
 六 女は母を
 五 女は母を
 四 女は母を
 三 女は母を
 二 女は母を
 一 女は母を

三十一 女は母を
 三十 女は母を
 二十九 女は母を
 二十八 女は母を
 二十七 女は母を
 二十六 女は母を
 二十五 女は母を
 二十四 女は母を
 二十三 女は母を
 二十二 女は母を
 二十一 女は母を
 二十 女は母を
 十九 女は母を
 十八 女は母を
 十七 女は母を
 十六 女は母を
 十五 女は母を
 十四 女は母を
 十三 女は母を
 十二 女は母を
 十一 女は母を
 十 女は母を
 九 女は母を
 八 女は母を
 七 女は母を
 六 女は母を
 五 女は母を
 四 女は母を
 三 女は母を
 二 女は母を
 一 女は母を



三十二 女は母を
 三十一 女は母を
 三十 女は母を
 二十九 女は母を
 二十八 女は母を
 二十七 女は母を
 二十六 女は母を
 二十五 女は母を
 二十四 女は母を
 二十三 女は母を
 二十二 女は母を
 二十一 女は母を
 二十 女は母を
 十九 女は母を
 十八 女は母を
 十七 女は母を
 十六 女は母を
 十五 女は母を
 十四 女は母を
 十三 女は母を
 十二 女は母を
 十一 女は母を
 十 女は母を
 九 女は母を
 八 女は母を
 七 女は母を
 六 女は母を
 五 女は母を
 四 女は母を
 三 女は母を
 二 女は母を
 一 女は母を

嘉永四年辛亥壬辰孟春新鐫目錄



十段

かしてあたらふつらうのつらね
 まさるゝくまはねのうらふとせせき
 だしのまはつちのまをままらふと
 ありあうほもあつちのまをままら
 けのまをまらふまのまをまらふ
 むとのまをまらふまのまをまらふ

京山作

豊国画

十二段

西八段のつらね
 くるんまのつらね
 ままらふのつらね
 月夜をんをまらふまら
 せまらふのつらね
 かつらふのつらね
 あつちのつらね
 だんまのつらね
 ちかひのつらね

作者

とてつらふのつらね
 身七段のつらね
 ひまのつらね
 つらふのつらね
 めてつらね

根源實紫

こまは藤氏物語の作者紫式部の一代記あり歌仙源氏
 の日記ふよれをみかたのつらねのつらねありあつちのつらね
 をみかたのつらねのつらねありあつちのつらねありあつち
 のつらねありあつちのつらねありあつちのつらねありあつち
 のつらねありあつちのつらねありあつちのつらねありあつち
 藤氏仙果作一陽齋豊国画 初編二篇當春出版

睡郷言

七ツ組入子枕

一陽齋國芳画

浅間嶽面影

柳下亭種員作

総次郎

琴聲美人録

一陽齋豊国画

破軍太郎七星奇談

同作

關太郎鈴鹿物語

一雄齋國輝画

井

佐野屋喜兵衛板

